



令和8年度が幕を開け、一ヶ月。新緑の香りが心地よい季節となりました。今月は「前期人権・同和教育月間」です。この一ヶ月間、自分や友だちの「個性」や「良さ」に光を当て、互いに尊重し合える関係づくりについて考えていきます。誰もが自分らしく、安心して過ごせる学校(学級)を、みんなの手でつくっていきましょう。

「もし今、ここで起きたら」を想像する～避難訓練～

新緑の眩しい4月17日(金)、地震発生を想定した避難訓練を実施しました。生徒は放送を正しく聞き取り、迅速かつ整然と校庭へ避難しました。その真剣な態度は、命を守るという意識の表れであり、大変立派なものでした。

訓練の最後、学校長から「注意深く直面して、抵抗せよ」という話がありました。これは、災害という厳しい現実に向き合い、いかなる困難な状況下でも、命を繋ぐために決して諦めず最善を尽くそうという呼びかけでした。

訓練後、生徒は次のような感想を寄せてくれました。

「先日の長野の地震で、速報の音がとても怖くて、家族にしがみついてしまいました。」
「避難訓練のとき、私は各教室からの避難経路を十分に確認できていなかったことに気づきました。これからは、どこにいてもすぐに動けるよう、意識して経路を確認しようと思います。」
「『訓練は本番のように、本番は訓練のように』。この言葉の大切さを感じています。」

まさに、「注意深く直面する」ことの実践です。災害は時と場所を選びません。昨年度よりも高い意識で訓練に臨めた自分を認めつつ、さらにその上「いかなる状況でも、自分の命を自分で守り抜く」ための備えを目指す。今回の地震での気づきを、学校全体で共有し、より強固な防災意識へと高めていきたいと思います。

ルールを守ることは、命を守ること～交通安全教室～

4月27日(月)、交通安全協会の方々をお招きし、交通安全教室を行いました。道路の歩き方と自転車の使い方のビデオを視聴し、具体的なお話を聞く中で、身近な道路に潜む危険について改めて考える機会となりました。

自転車の「青切符」導入など、ルールは厳しくなっていますが、大切なのは「罰則」ではなく、一人ひとりの意識です。生徒の振り返りからは、等身大の気づきが見えてきました。

「ビデオを見て、道路の危険性が改めて分かりました。命に関わることだから、小さな注意を怠らずに、ちゃんとルールを守っていきたいです。」
「青切符が導入されるなど厳しくなっているけど、それよりも、当たり前な交通ルールをしっかり守ることが一番大切なのだと分かりました。」

「学校の行き帰りに、止まってくれた車にお礼をしている人がいた。長野の人はすごいなと思ったし、僕もそうしようと思いました。」

最後の感想にある「お礼（お辞儀）」は、長野県が全国に誇る素晴らしい習慣です。誰かに言われたからではなく、自分で「すごいな、自分もやろう」と決めて動くこと。それこそが、本校が目指す「自律」の姿であり、交通安全の「その上」にある、思いやりのある登下校に繋がって行くのだと感じています。

共に学び、共に歩む一年に

4月、新しい環境の中で目標をもち、精一杯取り組む姿が様々な場面で見られました。教室や廊下で交わされる言葉からは、新しい学年での学びに胸を膨らませる、生徒の瑞々しい意欲が伝わってまいります。

「もっと高みへ」：家庭科の調理実習は卵焼き。家でもたくさん作ってきたけれど、予習を活かして学校でもっと美味しく作れるように練習したいです。

「新たな自分」：声変わりした今の自分に合う声の出し方を教わり、中学の音楽は専門的で楽しい！と感動しました。

「一歩ずつ前へ」：初めての放送当番。不安だったけれど先輩の丁寧な教えで自信がつけました。次はもっとテキパキ動きたいです。

「自律と責任」：昨日より長く勉強できた！三日坊主にならないよう頑張ります。部活では後輩を迎え、文化祭の劇を絶対に最高のものにすると決めています。

「絆を深める」：宿泊学習のバーベキューが今から楽しみ。同じ班の仲間と仲を深め、友達作りも頑張りたいです。

こうした一つひとつの前向きな決意や挑戦を、私たちは大切に見守っていきたいと考えております。

連休明け、頑張る気持ちと共に少し疲れが出てくることもあるかと思います。充実した学校生活を送ることができるよう、お子さんの小さな変化や思いに寄り添い、共に考え共に学び、思いに共感しながら、職員一同引き続き精一杯取り組んでまいります。

お子さんの様子でお気づきのことがありましたら、いつでもお気軽にご連絡ください。

学校ホームページ <http://www.school.unic.jp/ueda1/>

